

「底が突き抜けた」時代の歩き方⁴⁶⁸

年表から飛び出してくる 1968年 - 1970年～1971年
1970年

- 1月8日、沖縄空軍労、米軍による大量解雇撤回要求で48時間スト突入
10月1日、第11回国勢調査、沖縄を含めて実施。日本の人口1億人突破、沖縄人口94万5111人。11月15日、沖縄で戦後初の国政選挙。
- 1月14日、アメリカ連邦最高裁がアラバマ、フロリダ、ジョージア、ルイジアナなどの各州に対し、来たる2月1日を公立学校の人種隔離廃止実行の最終期限とすることを命じる。
2月18日、ニクソン大統領(57)が外交特別教書で「1970年代のアメリカの外交政策」(ニクソン・ドクトリン)を発表し、アジアへの過剰な介入を控えることを表明。
5月1日、米軍・南ベトナム軍、カンボジア侵攻。
4日、米オハイオ州ケント大で反戦デモ学生4人が射殺される。
6月24日、米上院、北爆開始、ベトナム戦争の泥沼化のきっかけになった64年のトンキン湾決議の無効を決議。
8月26日、**女性の参政権獲得50周年**にちなんで、各地で女性解放のデモや集会開催。ニューヨーク、ワシントン、シカゴなど大都市では10万人あまりが集会に参加、ウーマン・リブの大作進を行い、ニューヨーク州知事は「女性人権デー」と呼んで支援した。女性たちは、参政権獲得後も真の男女平等、女性解放は達成できていない、との思いを募らせていた。そうした思いを代弁したのが、63年に「フェミニン・ミスティック」を出版して中流の白人女性に女性解放を意識させたベティ・フリーダンや、「性の政治学」の著者ケイト・ミレットなどだった。イギリスではこの年、ジャメーン・グリア(31)が「去勢された女」を出版し、女性の既成概念を打ち破ろうとする本書はベストセラーになった。この日のデモに掲げられた要求は、妊娠中絶の無料化、24時間託児所設置、就職と教育の機会の平等の三点だった。ニクソン大統領も女性の社会的役割の拡大に関する声明を発表し、二年後の72年には平等権修正条項(ERA)案が議会を通過、国連も75年を正式に「国際婦人年」にすると宣言し、メキシコシティでの国際婦人年世界会議の開催を決定。同会議は世界行動計画を採択し、85年までの10年を「国連婦人の10年」とすることも決定し、成果は少しずつ上がっていく。
- **空の大量輸送時代到来** 1月22日、ジャンボ・ジェット機ボーイング747が、ニューヨーク-ロンドン間に就航。巡航速度は毎時1030km、座席数は最大490席、航続距離は1万kmを誇り、いよいよ空も大量輸送の時代を迎えることになった。
- **つくられたスモン病** 2月6日、朝日新聞、スモン病をウイルス感染症として1面報道。

55年頃から和歌山、山形、三重などで発生し、59年頃から全国に集団的に広がった共通の原因による新しい病気であることがわかりながら、原因不明の奇病とされていた疾病が、64年5月の61回日本内科学総会で亜急性脊髄視神経症と名づけられ、頭文字を綴ったSMON＝スモン病が略称となった。下半身マヒ、視力低下、失明などが特徴で、重症だと寝たきり、軽傷でも足のシビレがとれない。67年に岡山県井原市及び周辺で40人以上のスモン病患者発生(この地区は翌年も87人、69年71人と多発)、68年に同県真庭郡湯原町で40人余患者発生。朝日報道のスモン・ウイルス感染説のセンセーションで、患者は職場を追われ、離婚・破談・隔離などの差別迫害に晒された。6月、田村善蔵東大薬学部教授がスモン患者の緑舌・緑便はキノホルムによると発表。8月6日、椿忠雄新潟大医学部教授が厚生省に「整腸剤キノホルムの使用量とスモン発生率との間に明らかに相関関係がある」と報告。9月7日、厚生省がキノホルム製剤販売中止措置に至って、各地で国や製薬会社、病院等を相手取った訴訟が相次ぐ。72年2月26日現在のスモン患者は9131人、死者500人以上、訴訟は最終的に22地裁約3900人、79年5月16日、全被告が揃って和解調印。

- 2月19日、成田空港第一次強制測量実施で、反対派は反日共系学生と共に実力闘争展開。
- **日本万博、大阪で開幕** 3月14日、吹田市の千里丘陵のエキスポランドで、「人類の進歩と調和」をメインテーマに日本万博(EXPO'70)が開幕。万博始まって以来の規模となった日本万博には、77カ国が参加し、「月の石」などの宇宙展示で前評判の高いアメリカ館やソ連館、日本の三菱未来館などの各パビリオンに長蛇の列が出来た。9月13日までの183日間の会期中に6421万8770人ももの史上最高の入場者を集め、大企業が先端技術を競って展示、「経済大国日本」を内外にアピールした。

- 3月15日、赤軍派議長の塩見孝也逮捕。
- 3月18日、カンボジアでクーデター、親米派のロン・ノル将軍がソ連訪問中の国家元首シアヌークを解任して全権掌握。地位を追われたシアヌークは翌日、北京に亡命し、共産勢力クメール・ルージュとカンプチア民族統一戦線を結成して、アメリカと敵対。5月1日、米・南ベトナム政府軍、カンボジア侵攻開始。

- **初の東西ドイツ首脳会談** 3月19日、ブランド西独首相(57)が東独市民の大歓迎を受けて、シュトフ東独首相(56)とエルフルトで初の歴史的会談。東西の平和共存・緊張緩和政策の模索に向けて、第二回東西首脳会談は5月に西ドイツのカッセルで行われ、この試みは90年のドイツ再統一への第一歩となった。

- **「よど号」ハイジャック事件** 3月31日、午前7時33分、乗員乗客138人を乗せた羽田発福岡行き日航351便「よど号」が、富士山付近を飛行中、9人の赤軍派グループに「北朝鮮へ行け」と日本刀で脅迫され、ハイジャックされる。石田機長(49)は「北朝鮮へは燃料不足」として、午前9時すぎ福岡空港へ一旦着陸。給油後、老人や女子供ら23人を降ろし、5時間後の午後2時9分福岡を飛び立ち、一度は北朝鮮領空内に入ったが、対空砲火とミグ戦闘機の追跡にあって南下し、乗っ取り犯にソウルを平壤

と誤認させる韓国側の作戦に従い、3時18分韓国の金浦空港^{きんぽ}に着陸。同空港は乗客救出のため平壤空港に偽装するが、見破られて失敗、犯人たちは三日間にわたり機内に籠城。

3日、午後2時20分、乗客全員の50人余が降ろされ、交代の人質として山村新治郎運輸政務次官が乗り込んだ後、金浦空港を離陸、夜平壤到着。

4日、山村次官と乗員3人は「よど号」と共に送還。犯人の学生らに対し、北朝鮮は「彼ら自身が日本に二度と帰らないといっている以上、送り返すことはできない」と述べ、「日本の警察の役割を代行することはできない」との声明発表。

15日、警視庁は乗っ取り主犯とみられていた福島医大生梅内恒夫(22)について、機内から指紋が出ないことから別の学生との見方を強める。これまで指紋検出されたのは田宮高麿(28)、小西隆裕(23)、田中義三(21)、若林盛亮(23)ら6人。

22日、警視庁公安部は赤軍派議長塩見孝也(28)=拘置中=が乗っ取り計画案首謀者とみて、国外移送誘拐取、爆発物取締罰則違反など6つの容疑で再逮捕。田宮らは自らの行動を「我々は“あしたのジョー”である」と述べた。

●**ビートルズ解散** 4月10日、ポール・マッカートニー(28)の脱退が発表され、ザ・ビートルズの10年間にわたる活動に終止符。

●**ぶりんす号シージャック事件** 5月11日、午前零時半頃、山口県内の国道で川藤辰久(20)と少年2人の乗る盗難車を山口県警のパトカーが停車させ、少年1人は捕まえたが、川藤ら2人は警官に猟銃を突きつけ、胸を短刀で刺し、逃走。

12日、午後2時頃、広島市尾長町の岩崎病院から「ライフル銃を持った2人の男がいる」との110番急報。2時半頃、2人を県道で発見。少年1人は捕まったが、川藤は警官のピストルを奪い、通りかかった軽トラックで逃走。午後3時40分、広島市内の鉄砲店から散弾銃1丁とライフル銃2丁を強奪。約1時間後、川藤は広島港栈橋でライフルとピストル発射、栈橋で出港を待っていた観光船「ぶりんす号」に乗船、船長らを入質に呉方向に出港。午後9時43分、「ぶりんす号」は松山港栈橋に接岸。

13日、午前零時40分頃、33人の乗客全員と乗員ら4人を下船させ、船長ら7人を乗せたまま出港。同8時54分、広島港に戻ってくる。同9時51分ころ、「ぶりんす号」上甲板で仁王立ちとなった川藤めがけて大阪府警ライフル班が発射、銃弾は左胸に命中し、倒れたところを逮捕。11時25分、病院で死亡。人質事件で犯人狙撃によって決着がついた初のケースで、警視庁は狙撃を正当防衛と表明。

●**70年安保闘争** 6月23日、日米安全保障条約が自動継続となり、これに反対する革新陣営では朝から46都道府県の1345ヵ所で77万人(警察庁調べ)が集会・デモに参加。この日の安保反対運動は警備当局の予想をはるかに超える多数の市民が参加し、60年安保闘争に迫る盛り上がりを見せた。

東京の代々木公園では社会・共産両党、総評・中立労連などによる中央集会が午後6時半から開催され、9万人参加。ベ平連や新左翼各派も明治公園など3ヵ所で4万千人が集まり、都心をデモ行進。一部学生らがデモコースで座り込み、投石、火炎ビンを投

げるなどしたため、デモ隊が立ち往生、解散地の新橋では市民5千人が終電に乗り遅れるなどした。

● 7月17日、東京地裁、家永三郎東京教育大学教授が三年前に起こした日本史教科書の検定不合格処分をめぐって、杉本良吉裁判長は、「教育を受ける権利は子供の生まれながらの権利」で、「国家は教育内容に干渉してはならない」とし、教科書執筆者の「表現の自由」を尊重して、検定不合格処分を取り消す判決を下す。文部省はただちに控訴するが、75年に却下、82年に最高裁が旧指導要領失効後の「訴えの利益」は疑問として差し戻しを命じ、89年、東京高裁は一審を取り消し、家永原告の訴えを却下。

● **光化学スモッグ発生** 7月18日、午後1時頃、東京・杉並区の高校運動場で、女生徒40人余が吐き気などを訴えて倒れる。都公害規制部と都公害研究所は、光化学スモッグのオキシダント（強酸化性物質）と、高湿度のなかで発生した硫酸ミスト（硫酸の微粒子）による世界初の複合汚染と発表。発生地付近は、急に気温が上がった 天気がよく紫外線が強かった 風が弱く空気が淀みやすかった、など条件が揃っていた。

● 8月4日、中核派に拉致された革マル派の東京教育大生が、死体となって発見される。以後、両派「内ゲバ」が激化。

● 9月6日、ヨーロッパで旅客機4機が相次いでハイジャック。女性ゲリラ、ライラ・ハリドが失敗して逮捕される。パレスチナ解放人民戦線（PFLP）が翌7日、犯行声明を出し、勾留中のゲリラの解放を要求。

17日、首都アンマンを根拠地とするパレスチナ・ゲリラを、ヨルダンの政府軍が攻撃（黒い9月事件）。

28日、エジプトのナーセル大統領（52）、心臓発作のために急死。主軸を失った中東世界に政治的混迷の影を投げかける。

● **コザ暴動** 9月18日、沖縄・糸満町で米兵の酔っ払い運転で、主婦金城トヨ（51）がはねられ即死。

12月11日、米軍事法廷、無罪判決。16日、糸満小学校で5千人が抗議集会。裁判のやり直し、米人犯罪の裁判権移管を要求し、不満が全島に拡大。

20日、午前1時10分頃、コザ市の路上で米兵運転の車が通行中の米軍雇用員、翁長清一（39）をはね、頭に軽いケガをさせた。事故処理に出動した米軍憲兵隊が、被害者を放置したまま車を動かそうとしたため、群衆が騒ぎ出し、20人の応援を派遣された憲兵が群衆の投石に威嚇射撃で応戦したことによって、騒ぎはより一層拡大。激高した群衆5千人が路上の外車など73台に放火、更に嘉手納基地の第2ゲートから基地内に乱入、車10台に放火、米人学校3棟に放火、米空軍雇用事務所も放火で全焼。米軍は催涙弾を発射、双方で80人余が負傷、20人逮捕。ランバート高等弁務官、コザ市の反米事件につき、沖縄復帰を阻害、化学兵器を撤去しないと特别声明。

21日、屋良主席、弁務官に会見、抗議。23日、参院沖縄・北方問題特別委員会、コザ事件での高等弁務官声明を遺憾とし、米兵犯罪裁判権委譲を米国に申し入れる決議

を全会一致で採択。30日、愛知外相、駐日米大使マイヤーと会談し、コザ事件の収拾と再発防止の「新聞発表文」に合意し、ランバート声明を修正。

- 10月7日、佐藤進一、藤堂明保東大教授が、大学闘争における教授会の責任回避を批判し、退官。12日、宇井純東大助手らが大学で自主講座「公害言論」を開講。

- 10月8日、反ソ的イデオロギー活動を理由に、作家同盟を除名されていたアレクサンドル・ソルジェニーツイン（52）にノーベル文学賞授与が決まる。45年、第二次大戦の前線にいた時、友人に宛てた手紙のなかで暗にスターリンを批判したことから、8年に及び強制収容所や流刑地での生活を余儀なくされ、その後、57年に名誉回復、スターリン批判の高まる62年に処女作「イワン・デニーソヴィチの一日」を発表、一躍注目されることになったが、当局の圧力で「ガン病棟」「煉獄のなかで」は、国内では発表できず、二年前に国外で刊行された。この日の授賞によって市民権剥奪を恐れ、ストックホルムでの授賞式には欠席。後に「収容所群島」を著し、74年に国外追放。

- 10月21日、国際反戦デーで学生・労働者が反戦集会を開くなか、東京・京橋の水谷公園ではヘルメットを被った女性たちが、「男は立入禁止」の集会を開く。60年代後半から欧米で盛んになった女性自身による女性解放運動「ウーマンリブ」の日本初の街頭進出。デモ参加者は「ぐるーぷ・闘うおんな」「女性解放運動研究会」のメンバー約200人で、ほとんどが20～25歳の会社員や学生。ピンクや黒のヘルメットを被り、「中絶禁止反対」や「男をよろこばせるための服装・化粧をしない」などと訴え、銀座・数寄屋橋から新橋まで派手なジグザグデモを繰り広げた。

11月14日、東京・渋谷で日本初のウーマンリブ大会開催、「性差別への告発」を議題に討論。

- 10月24日、サルバドル・アジェンデ（62）がチリ大統領に選出。南米大陸で自由選挙による初の社会主義政権誕生。72年10月11日、アジェンデ大統領の経済政策反対のスト続出、非常事態宣言出される。

73年9月11日（もう一つの9・11）、陸海空3軍と警察からなる軍事評議会が起こしたクーデターで、アジェンデ大統領の人民連合政権崩壊。早朝、海軍が首都サンチアゴの外港バルパライソの港を占領。午前7時、ラジオがピノチェト将軍（58）を首班とする軍事評議会が立憲政府に取って代わったことを報道。反乱軍は大統領官邸モネダ宮を包囲し、アジェンデが降伏勧告を拒否すると攻撃開始。午後3時すぎ、官邸警備の軍隊を排除して内部に突入。すでに大統領は自殺しており、この日だけで5千人が軍や警察に射殺された。大衆の福祉を重視し、外資に支配されていた産業の国有化政策によって、当初、国民生活は向上したが、アジェンデ政権の社会主義的な路線に反対する保守層のストと、これに抗議する労働者のストが続発。更にアメリカの露骨な不安定化工作によって左右の対立が増幅し、軍部の付け入るところとなった。この後、チリは経済的にはかなりの好転をみせるが、軍事政権による人権抑圧の暗黒の時代を迎える。

- 三島由紀夫^{けつぎ} 11月25日、午前11時頃、作家の三島由紀夫（45）ら楯の会の

メンバー 5 人が、東京・市谷の自衛隊駐屯地の東部方面総監部に押しかけ、2 階の総監室に益田兼利総監（陸将）を監禁し、日本刀を抜いて「檄^{げき}」と題する 6 項目の要求書突きつけた。止めに入った自衛隊幹部ら 8 人が切りつけられて負傷。総監をイスに縛り付け、総監室前にイスや机でバリケードを作り、立て籠もる。その後三島は庁舎前に自衛隊員を千人集め、バルコニーから「自衛隊は 10・21 のとき、いったい何をしていたのか。すぐに憲法改正に決起せよ」など約 5 分間演説。「バカヤロー」「三島、頭を冷やせ」などの激しいヤジを自衛隊員は浴びせて、三島の演説を遮ったために総監室に戻り、益田総監が止めるのも聞かず、制服を脱ぎ正座し、短刀で割腹、隊員の森田必勝（25）が三島の日本刀で介錯、森田も残る学生の介錯で自決。小川正洋（22）、小賀浩靖（25）、古賀正義（22）の三会員は総監を連れ、外に出た。三人は囑託殺人、傷害、不法監禁現行犯で逮捕。また市ヶ谷会館にいた「楯の会」の会員 33 人を任意同行して取り調べ。みずから学生を集めて民兵組織「楯の会」を結成し、自衛隊に体験入隊させて訓練するなど活動してきた三島にとって、作家としての仕事はこの日の朝完成した（実はもっと前に完成されていた）「豊饒の海」の最終巻「天人五衰」が遺作となった。憲法改正や自衛隊の蹶起^{けつき}を促した彼の行動は、市民からは「時代錯誤」と批判された。

26 日、「三島の死は隊長としての責任であり、森田の死は楯の会全員と日本の憂国の志をいただく青年層を代表するもの」との古賀ら 3 人に残した命令書を発見。辞世の歌「散るをいとふ世にも人にもさきがけて散るこそ花と吹く小夜嵐」

12 月 18 日、国会で野党側は「安易に乱入を許したこと、体験入隊で三島ら楯の会を特別に優遇し、育成したことは中曽根康弘防衛庁長官の責任」と追及したが、中曽根長官は益田総監の辞表を受理し、責任を取らせたかたちに。

● 12 月 13 日、経済の低迷からポーランド労働者が官僚主義に反乱し、グダニクスなどの北部都市で暴動発生（12 月事件）

17 日、全土に非常事態宣言が出され、二ヶ月続く。ソ連・東欧に深刻な余波。20 日、ゴムルカ第一書記辞任、ギエレク後任。

● 12 月 18 日、京浜安保共闘の三人が銃奪取のため、板橋区の派出所襲撃。一人が警官に射殺される。

《（事物）コピー機 使い捨てライター 公衆電話 3 分制 国産人工衛星 コンピュータ結婚

（流行語）ハイジャック ウーマンリブ スキンシップ モーレツからビューティフルへ 怨 鼻血ブードバツ ヘドロ シラケ 内ゲバ おぬしやるな ppm 生活かかっている ヤッタゼセニョール 人間性の追求 隣の車が小さく見えます 歩行者天国 ウハウハ 悪のり シージャック 進歩と調和

（TV）「時間ですよ」「ありがとう」「樅の木は残った」「細うで繁盛記」「大岡越前」「ハレンチ学園」「おさな妻」「だいこんの花」「大江戸捜査網」「あしたのジョー」「みなしごハッチ」「遠くへ行きたい」「どっきりカメラ」「ラブ・ラブ・ショー」「日本史探訪」

(CM)「男は黙ってサッポロビール」「ウーン、マンダム」「振り向かないで××の人」
ライオン「ハヤシもあるですよ」オリエンタルカレー「」それにつけてもお
やつはカール」「ディスカバー・ジャパン」国鉄

(映画)「家族」「地の群れ」「どですかでん」「エロス+虐殺」「東京戦争戦後秘話」「三
里塚・第3次強制測量阻止闘争」「無常」「無頼漢」「影の車」「裸の十九才」「緋牡丹博
徒・お竜参上」「昭和残侠传・死んで貰います」「おさな妻」「赤頭巾ちゃん気をつけて」
「野良猫ロック」「沖縄」「戦争と人間」「幕末」「待ち伏せ」「でんきくらげ」「イー
ジー・ライダー」「明日に向かって撃て!」「サテリコン」「M A S H」「テオレマ」「王
女メディア」「冬のライオン」「地獄に堕ちた勇者ども」「ひとりぼっちの青春」「いちご
白書」「ひまわり」「シシリアン」「雨の訪問者」「大河のうた」「ウッドストック」

(コミック)「男どアホウ甲子園」「銭ゲバ」「アシュラ」「子連れ狼」「ダメおやじ」真
崎守「はみだし野郎の挽歌」「ど根性ガエル」山上たつひこ「光る風」「小さな恋のもの
がたり」「赤色エレジー」「さそり」「ゲバゲバ時評」「影狩り」バロン吉元「柔侠传」と
りいかずよし「トイレット博士」黒鉄ヒロシ「ひみこーッ」赤瀬川原平「野次馬画報」

(歌)「圭子の夢は夜ひらく」「傷だらけの人生」「知床旅情」「走れコータロー」「京都
の恋」「経験」「男と女のお話」「手紙」「ざんげの値打ちもない」「笑って許して」「四つ
のお願い」「白い蝶のサンバ」「雨がやんだら」「あなたならどうする」「ちっちゃな時
から」「戦争を知らない子供たち」「ついて来るかい」「逢わずに愛して」「誰もいない海」
「愛は傷つきやすく」「もう恋なのか」「一度だけなら」「群集の中で」「女の意地」

(本)塩月弥栄子「冠婚葬祭入門」曾野綾子「だれのために愛するか」立原正秋「冬
の旅」石原慎太郎「スパルタ教育」藤原弘達「創価学会を斬る」古山高麗雄
「プレオー8の夜明け」吉田知子「無明長夜」古井由吉「杏子」結城昌治
「軍旗はためく下に」渡辺淳一「光と影」沼正三「家畜人ヤプー」埴谷雄高「闇
の中の黒い馬」江藤淳「漱石とその時代」吉田健一「ヨオロッパの世紀末」
広末保「悪場所の発想」ミラン・クンデラ「冗談」ベンヤミン「複製技術時
代の芸術」ローレンツ「攻撃 - 悪の自然誌」倉橋由美子「夢の浮橋」小川
国夫「試みの岸」金井美恵子「夢の時間」三島由紀夫「天人五衰」中平卓
馬「来たるべき言葉のために」*「an・an」創刊

(AMUSE) 1 1 月天井桟敷、市街劇「人力飛行機ソロモン」

(スポーツ) 5/11 松浦輝夫・植村直己、日本人初のエベレスト登頂 8/30 植村直己、
北米マッキンリーに単独登頂、世界で初の5大陸最高峰征服

(LIFE) 2/12 シャープ、液晶 LSI 使用の電卓発売、10万円を切る 2月サントリー、
ミネラルウォーター発売 ミニ・スカート流行に伴いパンスト爆発的売れ行き
3/14 ケンタッキー・フライドチキン、大阪・万博会場に初登場 3月都内タクシー、
時間・距離併用メーター採用 4/16 世帯平均貯蓄100万円突破と発表 4/20 東レ、
人工皮革開発 7/31 東京・山手線に冷房車初登場、一台のみ 7月ダンキンドーナ

ツ第1号店、銀座に開店 8/2 銀座・新宿などで歩行者天国 10/1 国鉄の区間禁煙開始 10/1 国鉄青森 - 鹿児島間電化完成 10/2 日本最長トンネル山陽新幹線六甲トンネル貫通 10月東芝、60歳定年制 12月結婚 100万組超え史上最高》

1971年

●**司法危機** 1月4日、金沢地・家裁の平沢啓吉判事補(35)「東大裁判を契機として平賀書簡問題など最高裁の動きが信頼できなくなった」と退官願提出。

22日、最高裁の司法行政協議会で「裁判官の青法協(破防法反対の中から生まれた青年法律家協会)加入は好ましくない」との意見が大勢を占める。

2月5日、国会の裁判官訴追委員会で、全国の裁判官210人余が訴追請求を受けている問題について、「青法協会員」だけを理由に裁判官訴追できないと結論。

4月3日、日弁連、最高裁が熊本地・家裁の宮本判事補の再任拒否と、修習生7人の不採用を決めたことに対し、理由を公表せよとの会長談話発表。

5日、23期司法修習生修了式で、青法協会員らの発言をめぐり会場混乱、式はわずか2分で終わったが、最高裁は「修習生の品位をけがした」として、弁護士志望の阪口徳雄修習生罷免。一方、熊本県下の裁判官は宮本判事補の再任と、再任拒否理由の説明を求める文書を最高裁に発送。6日、大阪弁護士会、緊急合同員会で「阪口修習生の罷免は無効で、弁護士登録は可能」と結論。

7日、大分地・家裁で唯一の青法協会員である鈴木悦郎判事補(37)「個人的に親しい宮本判事補が再任を拒否されたことが動機」として抗議退官。

8日、最高裁、渡部日弁連会長が3日明らかにした談話は、司法行政への干渉である、と事務総長名で文書による抗議。13日、政府は閣議で最高裁が提出した名簿通り163人の裁判官任命、宮本判事補の再任拒否確定。

5月8日、日弁連、臨時総会で再任拒否、任官拒否は思想、信条、団体加入を理由としたものと考えざるを得ず、阪口罷免は不当で、共に容認できないと決議。宮本裁判官は熊本簡裁判事としてとどまり、最高裁に対し再任要求を続ける。

73年3月14日、「再任拒否がないようにと簡裁にとどまった歯止めの役目を果たした」と、宮本裁判官は熊本簡裁上席判事を通じて田中首相宛に退官届提出。

●1月25日、ウガンダでクーデター、アミン将軍(46)が政権掌握、徹底した独裁体制によって反対派の弾圧・虐殺を一層強化。

●1月、沖縄米軍、毒ガス撤去(7月、第2次輸送)

5月19日、全軍労、自治労ら54単産、沖縄返還協定反対で初の24時間スト決行。

6月17日、愛知外相とロジャーズ国務長官が沖縄返還協定に調印、26年ぶりの祖国復帰確定。調印式は午後9時、宇宙中継テレビが首相官邸と米国務省を結ぶなかでの、外交史上初めての同時調印方式。68年からの返還交渉は69年の共同声明で、「核抜き、本土並み、72年返還」が確認されたものの、核持ち込みや賠償問題はあいまいなまま、米軍基地の存続もこれまでと変わりはなかった。

沖縄では屋良琉球政府主席が、「島民不在の協定」と調印式への出席辞退。那覇、名護、八重山の三会場で聞かれた抗議の総決起大会に約1万5千人参加、「新たな差別と屈辱を押しつけるもの」と反対の声を挙げる。都内でも反日共系の学生、労働者のデモが大荒れ、神宮外苑や渋谷・霞ヶ関などで火炎ビンが飛び、交番が焼かれ、中核派による手製爆弾が投げつけられるなど、国電も一時ストップ。集会とデモは43都道府県、296カ所に及び、約9万2千人が参加（警視庁調べ）。10月19日、沖縄国会冒頭の傍聴席で爆竹。

11月10日、沖縄でゼネスト、火炎ビン闘争で警官一人死亡。17日、自民党、沖縄返還協定強行採決。19日、強行採決抗議行動が全国930カ所で展開、日比谷松本楼放火。

●赤軍派M作戦 2月17日、京浜安保共闘、真岡市で銃強奪。

26日、赤軍派の重信房子、ペイルートへ出国。

3月9日、神奈川県相模原市の団地の銀行出張所が4人組に襲われ、150万円奪われる。首都圏の金融機関を狙う同じ手口の強盗事件。

11日、警視庁、赤軍派の資金調達作戦と断定、同派幹部逮捕。

21日、M作戦（資金調達）の赤軍派二人組が宮城県宮城郡泉町の振興相互銀行黒松支店に押し入り、116万円強奪。

4月16日、警視庁、赤軍・京浜安保・共産党R Gの統一確認。

7月23日、米子市の松江相互銀行に4人組の男が押し入り、猟銃を突きつけ現金600万円強奪、車で逃走。翌朝までに全員逮捕、赤軍派の活動家で、猟銃は京浜安保共闘が2月に真岡市の鉄砲点から奪った11丁のうちの1丁と判明。この事件で赤軍派と京浜安保共闘の「危険な共闘」が明るみに出る。

8月、赤衛軍事件、朝霞駐屯地自衛隊陸士長刺殺。

12月18日、豊島区の土田国保警視庁警務部長宅で小包爆弾が爆発し、夫人死亡。

24日、新宿の派出所横でクリスマスツリー爆弾が爆発し、警官ら12人重軽傷。

●三里塚第二次強制代執行で3機動隊員死亡 2月22日、三里塚、千葉県と新東京国際空港公団が第一次強制代執行。反対同盟、激しく抵抗。

9月16日、成田空港建設予定地に残る反対派4カ所の拠点に対する第二次強制代執行。反対派、三里塚・芝山連合新国際空港反対同盟の農民、支援学生・労働者ら約3200人動員。代執行の対象となった三つの団結小屋に立て籠もり、反対派の婦人たちが杭に体を縛りつけて抵抗し、「農地死守」を叫ぶ三里塚農民と学生が空港周辺で激しいゲリラ活動を展開するなど、機動隊5300人と各所で衝突。代執行開始後まもなく機動隊員3人が角材、火炎ビンなどの攻撃で死亡、115人の重軽傷者など、成田闘争最大の惨事となり、代執行は翌日以降にもちこされる。

66年7月、閣議で新東京国際空港建設が成田市三里塚に決定して以来、農民と支援学生各派の「農学共闘」による抵抗が激しさを増す一方で、2月22日から3月25日にかけて行われた第一次代執行でも逮捕者487人、負傷者700人を出した。当初7

1年春開港予定の成田空港は、激しい反対運動で大幅に遅れ、78年5月開港。

●**アカイアサヒ** 3月、「イラスト特集抵抗する漂民－反文化の心象風景」を特集した「朝日ジャーナル」3月19日号の表紙のフォト・モンタージュに金髪女性の大膽ヌードが登場し、物議を醸す。更に、連載の赤瀬川原平「桜画報」では日の出のイラストに「アカイアカイアサヒアサヒ」と字を入れ、欄外に「朝日は赤くなければ朝日ではないのだ。ホワイト色の朝日なんてあるべきではない。せめて桜色に……。」と注釈をつけた。これが大問題となり、`偏向`の朝日新聞と自民党の攻撃の対象となって、「桜画報」はこの号で中止。この3月19日号は自主回収。

●**多摩ニュータウン入居開始** 3月26日、多摩丘陵地帯に建設中の多摩ニュータウンで入居が始まり、第一次入居予定者は2690戸、約8千人。この日は630人が新しい生活のスタートを切った。

64年に、八王子・町田市、南多摩郡多摩・稲城町にまたがる東西14km、南北2～4kmの3020haに、新潟市の人口を上まわる41万人が生活する世界最大のニュータウン建設構想が打ち出され、通勤の足や学校、医療機関の建設などは未解決のまま、ようやく第一次入居にこぎつける。至る所に掘り返された土が剥き出しになり、ダンプの土ボコリで洗濯物が干せなくなる状態であったが、平均141倍、最高3185倍の倍率で、多摩ニュータウンは翌年3月までに8500戸が完成、2万8千人が入居するが、建設資材の高騰により以後3年間住宅建設がストップ、その間に譲渡価格が予定の4倍にもなり、入居予定者とのトラブル続出。74年暮れに工事再開、交通も京王帝都相模原線・小田急多摩線が相次いで開通、東京のベッドタウンとしての外観を整える。

64年8月に入居が始まった千里ニュータウン（大阪府）以来、無秩序な都市開発にブレーキをかけるため大規模団地の建設が急がれ、72年1月には高島平団地の入居開始。

●3月31日、南ベトナムのソンミ村虐殺事件の軍法会議、被告ウィリアム・カリー米陸軍中尉（28）に終身重労働の刑。減刑嘆願が殺到し、翌日、ニクソン大統領は最終決定までカリーの釈放指示。

4月24日、ワシントンに全国から20万人が集まって、大規模なベトナム反戦集会開催。5月3日、全米でベトナム即時停戦要求デモ

6月13日、ニューヨークタイムズ、国防総省のベトナム秘密報告書入手し、計画的なベトナム介入政策暴露。政府は記事差し止めを求めるが、30日、最高裁、却下。

12月26日、アメリカ空軍、北ベトナムの飛行場、ミサイル基地などを5日間にわたって猛爆（北爆再開）。

●4月16日、天皇・皇后、広島原爆慰霊碑初参拝。広島地裁、首相の異議申し立により糾弾デモ全面禁止。8月6日、佐藤首相、首相として初の平和祈念式典に出席。

●**バングラデシュ独立** 4月17日、東パキスタンでパキスタン軍と内線を続けていたアワミ（人民）連盟が、臨時政府を樹立し、バングラデシュ人民共和国発足。

●4月23日、大阪で健保改正反対の看護婦デモ

- 5月14日、空前の交通スト、18、20、21日と続く。
- **大久保清、連続婦人誘拐殺人** 5月14日、群馬県藤岡市の女性会社員（21）を誘拐した容疑で、高崎市八幡町の無職大久保清（36）逮捕。

26日、大久保、女性殺し自供。翌27日に女性の死体が裏妙義の桑畑から発見。更に3月末から逮捕されるまでに、その女性を含め17歳から20歳までの8人の女性を殺していたことを自供、大久保は白色のマツダ・ロータリー・クーペに乗り、ロシア風のルバシカを着用、ベレー帽を被り画家にみせかけ、「モデルになってくれませんか」「高校の教師だが、結婚相手を探している」と狙った女性をドライブに誘い、車内で犯し、抵抗すると殺した。大久保は35（昭和10）年1月群馬県八幡村で生まれ、2男4女の2番目だったが、母親が溺愛し、逮捕されるときまで「ボクちゃん」と呼んだ。19歳で窃盗、20歳で婦女暴行未遂2件で服役、27歳で結婚したが、65年恐喝容疑で逮捕され、執行猶予判決で家に帰ってみると、その間に妻が父親に犯され実家に帰ったと告げた兄を、ウソを告げたと殺しかけたことがあり、このことのハケ口が若い女性に転嫁され、逮捕されるまでの73日間に愛車に56日間乗り、車中から127人に声をかけ、35人を車に連れ込み、10数人を犯し、8人を殺害。

73年2月22日、前橋地裁、死刑判決。控訴せず、一審確定。76年1月22日、死刑執行

- **弘前大教授夫人殺し真犯人** 6月、自分が49年に起きた弘前大学医学部教授夫人殺しの真犯人であると男が名乗り出る。この男・滝谷福松は、教授夫人殺しの犯人とされて10年の服役後、仮出所していた那須隆の幼友達で、彼自身も事件直後、弘前大付属病院の看護婦療に忍び込み、いたずらしようとしてケガをさせた事件で弘前署に逮捕。当時、教授夫人殺しについても追及されたが、アリバイを証言する人があって（後に嘘と判明）罪を免れた。名乗り出たきっかけは、三島由紀夫の割腹自決にショックを受け、「男らしい死とは何か」を真剣に考えたからのこと。那須さんは仙台高裁へ再審請求、一度は棄却。

76年7月13日、再審開始決定。77年2月15日、仙台高裁、完全無罪の判決。81年4月、青森地裁弘前支部、再審無罪では初めての国家賠償を認めるが、裁判官の過失否定、9700万円の請求に対し960万円の低額支払い判決。

86年11月28日、仙台高裁、控訴棄却。90年7月20日最高裁、上告棄却。

- 7月3日、東亜国内航空「ばんだい号」墜落、68人全員死亡。
- 30日、自衛隊戦闘機と全日空機、雫石町上空で衝突、全日空機の162人全員死亡。
- 7月9日、アメリカ大統領補佐官ヘンリ・キッシンジャー（48）極秘に中国訪問、ベトナム戦争終結にむけてのニクソン大統領の訪中の約束を取りつける。

10月25日、国連総会、中国代表権をめぐり、中国の国連加盟・台湾追放決議。中国の国連加盟が正式に決定され、台湾国府は国連脱退声明を出す。

- 7月20日、日本マクドナルド、ハンバーガーレストラン1号店を銀座三越内に開店。
- 9月18日、日清食品、即席めん「カップヌードル」発売。熱湯注いで3分で世界の

食生活に革命を起こす。数年後に年間生産量、国内外で50億食を超える。

●**ドル・ショック** 8月15日、ニクソン米大統領、テレビを通じて、厳しいドル防衛策を含む新経済政策を発表。金・ドル交換の一時停止、10%の輸入課徴金制度導入、海外援助10%削減の内容。ベトナム戦争への介入による軍事費拡大や福祉予算の増加などで深刻な財政赤字をかかえるアメリカは、インフレと不況のなかでの失業者増加、貿易収支の約80年ぶりの赤字転落といった厳しい状況を打開するため、ドルの価値を再び高めようとした。このドル防衛策は、為替レートの調整に協力的でない西ヨーロッパと日本の市場開放、および防衛費の自己負担を狙ったものであった。ニクソンの発表以後、東京外国為替市場はドル売りが殺到し、円高・ドル安となる。そのため日本政府は28日、対ドル・レートの変動相場制移行に踏み切り、1ドル=360円の時代は終わりを告げる。

12月18日、スミソニアン博物館で開かれていた、日・米・英・仏など西側先進10カ国蔵相会議で、ドルの大幅切り下げを内容とする多国間通貨調整に合意、国際通貨体制に新時代を開く。今回のスミソニアン合意により戦後25年間続いた1ドル=360円は、一挙に16.88%もの大幅切り下げで1ドル=308円に確定。不況のなかで円切り上げを強いられた各界は「2年分の利益を失う」(造船)、「輸出回復の手段なし」(繊維)と深刻に受け止めたが、商魂たくましいデパートは「手持ち輸入品緊急バーゲン」開始。

●9月1日、アラブ連合共和国、リビア、シリアが国民投票による承認を得て、アラブ共和国連邦結成。これに伴って、アラブ連合共和国はエジプト・アラブ共和国と改称。

12月2日、旧イギリス保護領のアブ・ダビ、ドバイ、アジュマーン、シャルジャ、ウム・アルカイワイン、フジャイラの6首長国がアラブ首長国連邦結成。翌年、ラス・アルハイマ首長国が加わり、7首長国で形成。

●9月13日、中国共産党の林彪副主席、クーデターに失敗し、逃走中にモンゴルで墜落死。中国軍を掌握する林彪は、69年の党第9回全国代表大会で毛沢東の後継者に指名されていたが、中ソ対立をめぐって孤立し、毛沢東暗殺を企てるが失敗し、国外脱出を図ったものである。

《**事物**》電気もちつき機 バス専用レーン

(**流行語**) 脱サラ シラケ ニアミス がんばらなくっちゃ フィーリング ドルショック ピース 愛とは決して後悔しないこと ゴミ戦争 ディスカバー・ジャパン 日本株式会社 アンノン族 男メカケ 古い奴だと思いでしょが
(**TV**) 「スター誕生」「仮面ライダー」「2丁目3番地」「新婚さんいらっしゃい」「おれは男だ!」「春の坂道」「モーニングジャンボ」「野生の王国」「つくし誰の子」「天皇の世紀」「天下御免」「帰ってきたウルトラマン」「ルパン三世」「ごちそうさま」「浮世絵・女ねずみ小僧」

(**CM**) 「じゃ～に～コニカ」「愛情はつらつ」丸井「ガンバラナクッチャ」新グロモント「♪のんびり行こうよ」モービル石油 「♪さわやかリッコさん」花王石鹸

(映画)「八月の濡れた砂」「やさしいにっぽん人」「儀式」「婉という女」「沈黙」「いのちぼうにふろう」「書を捨てよ町へ出よう」「喜劇・女生きてます」「三里塚・第二砦の人々」「あらかじめ失われた恋人たちよ」「博徒外人部隊」「喜劇・女は男のふるさとヨ」「関東幹部会」「曼陀羅」「闇の中の魑魅魍魎」「モトシンカ・カラヌー」「倭奴へ」「ベニスに死す」「ある愛の詩」「ライアの娘」「小さな巨人」「我が青春のフロレンス」「バニシング・ポイント」「哀しみのトリスターナ」「ファイブ・イージー・ピース」「小さな恋のメロディ」「私は好奇心の強い女」「ソルジャー・ブルー」「栄光のル・マン」「告白」「水俣」* 12/23 大映、倒産 * 日活が製作主流をロマンポルノに転換、「団地妻」(白川和子)

(コミック) 真崎守「キバの紋章」「はみだし野郎の死春記(完)」 「仮面ライダー」「釘師サブやん」 永島慎二「花いちもんめ」「男おいどん」「空手バカ一代」 山岸涼子「アラベスク」 水木しげる「ヒットラー」

(歌)「よこはま・たそがれ」「また逢う日まで」「雨の御堂筋」「雨のエア・ポート」「別れの朝」「花嫁」「砂漠のような東京で」「終着駅」「長崎から船に乗って」「出発(たびだち)の歌」「雨のバラード」「ナオミの夢」「愛のくらし」「わたしの城下町」「17歳」「水色の恋」「男が死んでいく時に」「スーパー・スター」「マイ・スイート・ロード」「故郷に帰りたい」「あの素晴らしい愛をもう一度」「知床旅情」「ピンポンパン体操」

(本) イザヤ・ベンダソン「日本人とユダヤ人」 高橋悦子「二十歳の原点」 E・シガル「ラブ・ストーリー」 北山修「戦争を知らない子供たち」 李恢成「砧をうつ女」 東峰夫「オキナワの少年」 野間宏「青年の環」 土居健郎「『甘え』の構造」 柳田邦男「マッハの恐怖」 富岡多恵子「丘に向ってひとは並ぶ」 開高健「夏の闇」 小林美代子「髪の花」 森万紀子「黄色い娼婦」 丹羽文雄「蓮如」 津島佑子「謝肉祭」 荒木経惟「センチメンタルな旅」 大岡昇平「レイテ戦記」 * 「non・no」創刊 (AMUSE) 1月東京キッドブラザース「帰ってきた黄金バット」上演 演劇センター「翼を燃やす天使たち」上演(黒テント移動劇場の始まり) 3月渋谷ジャンジャンで「ゲバラ1971年東京」上演 9/30 白川義員-マッド・アマノ著作権裁判始まる 10月原田芳雄、市原悦子、中村敦夫ら俳優座脱退 12/19 日本フィル、スト突入、「第九交響曲」演奏中止 12月磨赤児、状況劇場退団

* 千葉・船橋で天狗ショー始まる * 大人のおもちゃパイプレーター熊ん子発売

(スポーツ) 7/17 今井通子、グランド・ジョラス北壁登頂成功、世界初の女性3大北壁征服 * ボウリング、ブーム

(LIFE) 2/6 滋賀・雄琴に「トルコ風呂」第1号店オープン 4月ダンキン・ドーナツ大阪に1号店 6/5 新宿超高層ビル第1号、京王プラザホテル開業 6/13 日本ダービー売り上げ8.9億、競馬史上最高記録更新 千万人競馬時代 8/14 大阪に初の光化学スモッグ注意報 9/1 赤ちゃん110番開設 10/3 八王子市で全国初のノーカーデー実施》 2005年3月3日記